

す

<

す

<

78号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2022年度 第1号 2022. 4. 1発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

令和4年4月1日付で乳児院院長に就任いたしました岡尾良一です。前職は、済生会中央病院の主に経理課、企画課の管理部門に在職しておりました。病院は、多職種協働によるチーム医療による安全な質の高い医療の提供に努めておりますが、乳児院でも同じように、様々な問題を持つ子供たちの健康と安全のため、保育士、医師、看護師、理学療法士、栄養士、個別相談員、心理士など各方面に精通した職員の連携による手厚い専門的養育を提供することが重要な役割であり、職員がお互いのつながりを大切にしながら養育に努めております。

令和2年9月に新乳児院に移転して2年目を迎え、小規模ユニットによる養育では、担当する職員が傍にすることで子供たちは安心して元気に穏やかな生活を送っております。

令和3年度から地域との関わりとして、港区からショートステイ事業委託を開始し、今年度は品川区を加えて2つの区の子育て支援の一端を担えるようになりました。地域との交流・連携の取り組みとして、済生会が目指すソーシャルインクルージョン活動を通して地域のまちづくりに寄与していきたいと思っております。

私もスタッフに色々教えていただき、成長していきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。



院長 岡尾 良一

理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



初詣



節分



ひなまつり会



個別院外保育

2歳の誕生日を迎えた子どもたちは毎月職員と1対1でお出かけしたりお部屋で遊んだりして、ゆったりと過ごします。

“くるま”が大好きなAくんは、たくさんの玩具の中から車に関する物を選び、机いっぱいに広げて遊び始めました。片手にパトカーを持ちながら絵本をめくって“はたらくくるま”の動きをジェスチャーで表現したり、「パトカーおんなじ」と言いながら並べて見せたりと、とても満足そうでした。また、洋服や靴の着脱、手洗い、片付けなどを自分で行ったりチャレンジしたりする姿をたくさん見せてくれました。

今後も個別院外保育の1対1でのより丁寧な関わりの中で、できること・頑張っていることをたくさん見つけてどんどん伸ばし、自信に繋げてあげたいと思います。

保育士 菅野 幸



日常の様子

乳児室と幼児室(Aホーム・Bホーム) の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

乳児室



寒さが厳しい季節となりましたが、晴れている日はテラスや屋上庭園で外気浴をします。冬の冷たい空気や暖かな日差しを感じたり、時には抱っこで揺られているうちに眠ってしまったり…。

お部屋では、おもちゃを握って音を楽しんだり、大人とふれあい遊びをしたりと、ゆったり過ごすことができました。



A ホーム

最近 A ちゃんは「いないいないばあ」がお気に入りです。遊んでいるとカウンターの陰へ隠れます。大人が名前を呼んで探すと「ばあ」とにこにこ笑顔で登場。お友達が「ばあ」と覗きに來てくれると、とても楽しそうに笑い合っています。子どもたちの可愛いやりとりで微笑ましい気持ちになりました。



B ホーム

B ホームではだるまさんシリーズの絵本がブームになっています。最年少の B くんもだるまさんシリーズが大好きな 1 人で、絵本を見つけると一直線に向かい、集中してページをめくり始めます。「だ、る、ま、さ、ん、が」のフレーズに合わせて体を左右に揺らして楽しんでいる姿を見て、私たち職員も自然と笑顔がこぼれます。



心理士だより～くっつくこと～

生まれてからまだ日にちの浅い赤ちゃんも、精いっぱい声をあげて泣いています。おそらく、生理的な不快、空腹、排泄、暑い寒いなどを感じている、ということの表現でしょう。赤ちゃんはだっこをすると泣きやみます。でも、抱っこだけでは、満腹にはならず、まだオムツもかえていない、室温湿度も調節していないのに。どうして泣きやむのか、考えてみると不思議です。

人にはマイナスの気分になると、信頼できる人にくっついてそれを元に戻そうとする力が備わっていると考えられています。泣いてくっついてホッとする、その後、ぐずって不快を取り除いてもらう、驚きや心配をなだめられる、気持ちをわかってもらう、適切な言葉をかけてもらう。この繰り返して人への信頼を確かなものとし、自分への信頼にも気づいていくのでしょう。

くっついて、マイナスの状態から回復すると、あたかも充電したかのようにそこから離れることができ、子どもたちなら探索・遊びの再開です。それは自分の人生を歩き出すことにつながります。大きくなるにつれ、次第にくっつける相手がいる、くっついて良い思いをした、ということを中心にイメージできるようになっていくのです。毛布やぬいぐるみにくっつくのは、その途中経過なのかもしれません。

「密」を避けなければならない昨今ですが、くっつくことの大切さを知り、その心地良さを大人も子どももできるだけ味わいたいものです。

心理士 柴田 薫



季節のレシピ～ミモザサラダ～

上に乗せた卵の黄身が花のような、春の訪れを感じられるサラダです。

●●● 家にある野菜で簡単に作ることができるので、春の食卓に1品加えてみるのはいかがでしょうか。

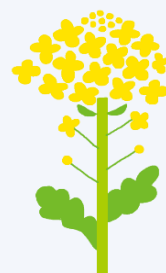
【材料】(2人分)

- ・ブロッコリー 1/2 房
- ・卵 1 個
- 《ドレッシング》
- ・マヨネーズ 大さじ 2
- ・牛乳 大さじ 1
- ・酢 小さじ 1

【作り方】

- (1) ブロッコリーは小房に分け、たっぷりのお湯に塩を入れ、沸騰後2分茹でる(芯は30秒程度長めにゆでる)流水で冷まし、水気はしっかりと切る。
- (2) 卵は沸騰後約12分間茹で、固ゆでにする。冷水にとり、殻をむく。半分に切り、白身と黄身に分け細かく刻む。
- (3) ドレッシングを作り、黄身は最後に盛り付ける。

管理栄養士 寺沢 彩歌



【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。

詳しくは下記までご連絡ください。TEL 03-3451-8289(直通) 担当 小泉看護師長代理

【寄付金について】当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。

詳しくは右記までご連絡ください。TEL 03-3451-8289(直通) 担当 事務 竹田

【編集後記】

暖かく過ごしやすい季節になってきました。元気いっぱい外遊びを楽しみたいです。

「すくすく 第78号」2022. 4.1 発行

発行人/岡尾 良一 編集委員/小泉 菜穂子
赤穂 真由美 宮野 由貴 栗野 桃子